

## 2024年の年を迎えて

今井 章夫

元旦からの思わぬ大震災が起き、あたかも今年の暗い予感を感じさせます。世界におきましても各地での戦争の影が益々広くなる傾向をひしひしと感じる年明けとなりました。頭の知恵のみが大きく発達し、心の進歩は逆に退化し神の望みとする「愛」を失くしていく歴史を歩んでいる気がいたします。

個人的なことではありますが 私は、アルセ・エクソール神父様が（今はイソ神父と名乗っておられます）の立ち上げられた「サンマルティン祈りの会」に賛同し、残り僅かな人生でもあり、大きな力にもなりません。繋いでいくことを決めています。

昨年11月3日は「聖マルティン・デ・ポ・ポツレスの祝日」で神父様所属の川崎市鹿島田教会で、設立後初めての「聖マルティン祭」を行い、参加者60人？と試算していましたが100人を超える参加者を頂き、大変感動し嬉しい思いをいたしました。

式は「一部をロザリオ祈り」、「二部はごミサ」「三部は聖マルティンの取りつぎを願う祈り」最後は「交流会」の順序で行われました。鹿島田教会の皆さんのお力沿いも頂きましたが、素晴らしい「マルティン祭」を開催することが出来ました。



昨年8月頃、フィリピンのバタンガス州のタール湖の湖畔にあるクエンカと言う場所に小さなチャペルを建てました。この場所をサンマルティン祈りの会では バーハイ・サンマルティンと呼び（サンマルティンの庵）または（サンマルティン黙想の家）として 日常生活で躓き、希望を失った人達の回復の場所として、また司祭と修道者、そして信徒に対して召命の見極めと更新のための一時的な避難場所として、貧しい方々、ケアが必要な病気の方々、等々にこの場所を提供すること目的としています。

発足してまだ6年、メンバーも6人程度ですが、神父様の思いは深いです。自分が経験してきた苦難の道を、不幸な家庭に育った聖マルティンがイエスを信じロザリオに毎日、お祈りを捧げ、苦しんでいる人を救済された、カリスマ性に心を惹かれ、一生を掛け、この会を作られました。会員はまだ僅かですが「聖マルティン・デ・ポツレス」の生涯についてのご理解をして頂き「サンマルティン祈りの会」の使命にご賛同下さってメンバーにでもなって頂ければと願っています。

無宗教の時代に入り、この先の教会の存続が危ぶまれる今日このごろ、人間の存在も危ぶまれるのではないのでしょうか。信者である私たちが神様の御心に深く添わなければならないと思います。



2023年11月30日  
『サンマルティン祭』 川崎市鹿島田教会にて